

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	都市緑地論 [Theory of Urban Greenary Space]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	710086	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	関西 剛康				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP3(5)	
授業概要	<p>緑豊かな潤いのある人類の生息地である“まち(都市)”を築いていくためには、世界的に緑地空間は重要な役割を担っています。本授業では主に、世界における近代公園の形成から、日本における導入、そして現代における成熟期までの変遷とその動向について概説します。</p> <p>そして、都市緑地の形成に関する知識、技術、理解能力を身につけることを目指しています。</p> <p>また、教員は技術士(総合技術監理部門、建設部門:都市及び地方計画)やRLA等の専門資格を有し、造園設計事務所において国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画した20年間の経験があります。そのキャリアを含めて、教員が実際に計画設計した造園作品の具体的な事例を解説しながらも、授業を進めます。</p>						
関連する科目	<p>本授業の履修より前には「造園植栽論」「庭園学」「庭園学演習」「世界の庭園と歴史」を、本授業と同時に「敷地計画論演習」を、本授業の履修後には「都市緑地論」「都市緑地論演習」を受講することが望ましい。</p>						
授業の進め方と方法	<p>テキスト代わりに配布するプリント資料(第1～4章で構成、約80頁)と、パワーポイントによるスライド(私関西の計画設計した造園作品もいくつか使用)をもとに授業を進行します。履修者に順番にテキストを音読してもらい、教員が解説を行う方式で授業をします。テキスト内の重要なキーワードは穴埋め式となっており、授業進捗に伴いスライド上で示して伝えます。授業時間外には1～4章ごとに4つのレポート作成があり、復習の意味を込めて学習した内容を全般的に書き込んでもらいます。学期末には、1～4章ごとにレポート提出をしてもらい、その内容を評価に反映します。</p>						
授業計画	<p>はじめに</p> <p>第01回:ガイダンス(近代国家における都市緑地形成とは何か) 講義全体の概要、評価方法について説明をします。</p> <p>第1章 世界における近代公園の誕生</p> <p>第02回:1.1英国ロンドンでの近代公園の成立 第03回:1.2仏国パリでの都市大改造と近代公園の整備 第04回:1.3米国ニューヨークでの都市計画とセントラル・パークの整備 ロンドン・パリ・ニューヨークにおける近代公園の誕生について学びます。</p> <p>第2章 日本での都市緑地の誕生</p> <p>第05回:2.1江戸期までの行楽地から、2.2明治期における近代公園の黎明 第06回:2.3東京の都市改造における「公園計画」、2.4「パブリック・ガーデン」と「パーク」の誕生とその違い 第07回:2.5公園整備運動の高まり、2.6明治期から大正期の緑地思想の3つの流れ 第08回:2.7パークシステムの形成、2.8国家プロジェクトである「明治神宮」整備 第09回:2.9「関東大震災」復興によるパークシステムとは? 日本の明治・大正期に導入された公園制度や緑地形成等について学びます。</p> <p>第3章 日本における都市緑地の展開と現在</p> <p>第10回:3.1昭和初期における緑地計画 第11回:3.2戦災復興による緑地計画 第12回:3.3現在の緑のオープンスペースについて 日本の昭和期から現在までに発展した公園制度や緑地形成について学びます。</p> <p>第4章 都市緑地におけるパークマネジメントについて</p> <p>第13回:4.1パークマネジメントの概要、4.2海外で注目のパークマネジメントの事例について 第14回:4.3日本で注目のパークマネジメントの事例について、 第15回:4.4パークマネジメントによる「稼ぐ公園」で生じる好循環、4.5まとめ 現在の持続可能な公園の運営について学びます。</p>						
授業の到達目標	<p>1.都市緑地についての理解や計画ができる専門職業人としての自覚・意欲を身につける。【態度・志向性の育成】</p> <p>2.都市緑地についての手法や理念が構築できる資質・能力を学び、その実践に向けた自己の課題を把握する。【自己管理能力・生涯学習力】</p> <p>3.造園の専門職業人として、都市緑地についての手法や理念を理解し、その内容を学ぶ。【職業知識・技能の育成】</p>						
授業時間外の学修	<p>授業内で配布するテキスト資料や参考書等を授業前に読んでおき、さらに授業後に理解を深めるために再度精読すること。そして、各章の終了後にはレポート(第1～4章)を作成すること。また、造園学の分野がどのようなものであるかを理解するため、授業中に紹介する身近な造園空間を訪問したり、全国的著名な庭園や公園緑地に関わる資料や図版等を見ておくこと。予習復習1時間程度。</p>						
課題に対するフィードバック	提出レポートは評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。	評価方法			1.各章の提出レポートの評価(100点) 2.授業への取り組みも評価(授業態度によってはマイナス評価も行う)		
テキスト	<p>テキストは、授業の進捗にあわせてプリントを配布(A4コピー資料は約80頁、各自で紙ファイルやクリアファイルに綴じ込むことが望ましい)。</p>						
参考書	<p>1.『エクステリアプランナーハンドブック』建築資料研究社2.『ランドスケープデザインの歴史』学芸出版社3.『ランドスケープ計画・設計論』技法堂出版 4.『ランドスケープデザイン』マルモ出版 など</p>						
備考							